

令和 7 年度

事業者番号	0470	事業所番号	047000
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	東洋インキ株式会社 埼玉製造所(倉庫)	前年度における事業所数	1
代表事業所所在地	市区町村	川越市	
	字・地番	大字栄1番地	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	16 化学工業		
分類番号(中分類)	16		
事業活動の概要	オフセットインキの原料及び製品の保管管理		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準となる排出量	t-CO ₂	基準となる原単位	t-CO ₂ /m ²
	【第3計画期間】平成27年度実績比、1%/年の削減を目標とする。				
削減目標	その他ガス				

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準となる排出量	t-CO ₂	基準となる原単位	
	【第3計画期間】令和6年度実績比、1%/年の削減を目標とする。				
削減目標	その他ガス				

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	東洋インキ株式会社 埼玉製造所（倉庫）	川越市大字栄 1 番地
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

3 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	0	0	0	0	0

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算 (t-CO₂)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO ₂		0	0	0	0	0
前年度比 (%)		—				
基準となる排出量に対する削減率 (%)						
その他ガス	非エネルギー起源CO ₂					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
三ふっ化窒素						
温室効果ガスの合計						

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO₂）

CO₂換算 (t-CO₂/指標)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位		0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
前年度比 (%)		—				
基準となる原単位に対する削減率(%)						
活動規模の指標単						
床面積	m ²	767.00	767.00	767.00	767.00	767.00

(4) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	照明設備ならびに空調設備の適切運用をベースに行うも、省エネ観点からの運用管理にてエネルギーの削減に繋がった。
令和3年度 (2021年度)	照明設備ならびに空調設備の適切運用をベースに行うも、省エネ観点からの運用管理にてエネルギーの削減に繋がった。
令和4年度 (2022年度)	照明設備ならびに空調設備の適切運用をベースに行うも、省エネ観点からの運用管理にてエネルギーの削減に繋がった。また本年度については、更なる運用管理の徹底（本倉庫の使用を最小化）によりエネルギー使用の削減に繋がった。
令和5年度 (2023年度)	令和4年度欄記載の取り組みを継続しエネルギー使用の削減に繋がった。
令和6年度 (2024年度)	令和5年度欄記載の取り組みを継続しエネルギー使用の削減に繋がった。

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	150300	受変電設備、 照明設備、 電気設備	15_事務用機器等の 管理	照明設備ならびに空調設備を適切に管理して電力量を削減する(毎年継続)		R2	1.0
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

A large yellow rectangular area intended for free text input, occupying most of the page below the header and section information.

令和 7 年度

事業者番号	0470	事業所番号	013001
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C
C	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	東洋インキ株式会社 埼玉製造所		
事業所所在地	市区町村	川越市	
	字・地番	大字栄1番地	
産業分類名(中分類)	16 化学工業		
分類番号(中分類)	16		
事業活動の概要	事業内容	主な製品(オフセットインキ、グラビアインキ)の製造ならびに開発	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	【第3計画期間】基準排出量に対して削減計画期間の平均削減率を20%とする。(必要に応じて排出量取引を活用する)			
	その他ガス	【非該当】			
エネルギー起源CO ₂ の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	91,592	t-CO ₂		
	削減目標量(計画期間合計)	22,898	t-CO ₂	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	2013年度比エネルギー起源CO ₂ 排出量▲48%達成。			
	その他ガス	【非該当】			

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	8,666	8,675	7,495	6,431	5,519

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算 (t-CO₂)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO ₂	16,938	16,949	14,648	12,574	10,802
前 年 度 比 (%)	—	0.1	-13.6	-14.2	-14.1
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO ₂				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	16,938	16,949	14,648	12,574	10,802

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO₂)

CO₂換算 (t-CO₂/指標)

	計 画 期 間					
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	
エネルギー起源 CO ₂ 排出量原単位	0.3565	0.3536	0.3141	0.2880	0.2488	
前 年 度 比 (%)	—	-0.8	-11.2	-8.3	-13.6	
活 動 規 模 の 指 標 単 位						
生産量	t/年	47,507.80	47,938.70	46,637.70	43,658.30	43,415.70

(4) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーを多く使用するオフセットインキ（新聞、書籍等紙媒体印刷用インキ）生産数量減に伴い、エネルギー使用量の減少傾向が継続している。 ・オフセットインキ生産に主に使用される蒸気ボイラーの一部省エネタイプへの変更に伴ない、ガス使用量の低減に繋がっている。 ・スポット空調機の一部省エネタイプへの更新、及び照明のLED化推進により電気使用量の削減に繋がっている。 <p>設備の増減：新たなオフセット製品の生産に使用するコンプレッサー設備（出力11kW）1台とパッケージエアコン（最大出力28kW）1台を増設</p>					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<ul style="list-style-type: none"> ・オフセット系一部インキの需要増に伴う生産量増加があり、その他製品とのプロダクトミックスに伴い都市ガス使用量の増加が観られた。 ・ガラスインキ（食品包装材用途）の堅調な需要により生産量の増加ならびにエネルギー（主に電力）の増加傾向が観られた。 ・照明のLED化、高効率機器への切り替え等省エネ対策の実施により、温室効果ガスの低減に繋がっている。 					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーを多く使用するオフセットインキの生産数量減に伴い、エネルギー使用量の減少傾向が継続している。 ・本年度については、新たな組織として「エネルギーマネジメント部会」を設置し関係者によるガス、電気の無駄を徹底的に抽出。夜間や休日等の不要な使用環境の見直し（停止等）により、結果的にエネルギーの大幅な削減に繋げる事が出来た。本活動については、翌年度以降も継続。 ・照明のLED化、高効率機器への切り替え等省エネ対策の実施により、温室効果ガスの低減に繋がっている。 ・建物の床面積の増減：新たな喫煙所及び駐輪場の設置（令和5年3月）により増加しております。 					
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<ul style="list-style-type: none"> ・ボイラーで発生させた蒸気が使用先で開閉する蒸気トラップについて点検を実施。動作不良と確認されたトラップを交換した結果、蒸気の使用効率が向上した。 ・昨年度欄にも記載の通りエネルギーを多く使用するオフセットインキの生産数量が今期も継続して減少傾向にあり、これに伴う電気使用量及び蒸気使用量が減少した。 ・リキッドインキ生産ラインで5台稼働していたコンプレッサーを4台稼働にて生産継続及び圧縮空気過剰使用量を把握した上、吐出圧力を下げて過剰使用量を削減して運用した結果、総電力量が減少した。 					
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度欄にも記載の通りエネルギーを多く使用するオフセットインキの生産数量が今期も継続して減少傾向にあり、これに伴う電気使用量及び蒸気使用量が減少した。 ・オフセット用蒸気ボイラーの週末停止実施→翌週タイムで起動する運用での省エネ実現。 ・オフセット用温水の加熱源を蒸気ボイラーから電気ヒーターへ使用日比率を変更する事による省エネ実現。 ・オフセット用エアコンプレッサーのエア漏れ箇所の特定と閉止による省エネ実現。 					

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	22,898	t-CO ₂ /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO ₂ /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO₂)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	22,898	22,898	22,898	22,898	22,898	114,490	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							91,592
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							22,898
実 績	エネルギー起源 CO ₂ 排出量(E)	16,938	16,949	14,648	12,574	10,802	71,911	
	削減率 (F = (A - E) / A)	26.03%	25.98%	36.03%	45.09%	52.83%	—	
	排出削減量 (G = A - E)	5,960	5,949	8,250	10,324	12,096	42,579	
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	実施済	実施済	実施済		

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実 施 予 定 年 度	実 施 した 年 度	推 計 削 減 量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分				
1	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	既存照明（水銀灯）のLED化	R2	30.0
2	329900		ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	蒸気ボイラー入れ替えによる効率化	R2	100.0
3	330200		空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	スポット空調機の省エネ機種への更新	R2	136.0
4	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	既存照明（水銀灯）のLED化	R3	30.0
5	330200		空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	高効率チラーへの切り替えによる効率化	R3	42.3
6	330200		空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	高効率空調機への切り替えによる効率化	R3	1.0
7	330200		空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	高効率空調機への切り替えによる効率化	R3	14.9
8	320200		ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	蒸気漏れによるエネルギー損失の改善（令和3年度からの継続）	R3	170.0
9	110100		一般管理事項	11_推進体制の整備	新たな組織として「エネルギーマネジメント部会」を設置し関係者によるエネルギー使用削減の取り組みを促進	R4	
10	110200		一般管理事項	11_主要設備等の保全管理	局排ユニット（タンパー）の開閉機能点検によりエネルギー効率の向上を実施	R4	5.0
11	130200		空気調和設備・換気設備	13_空気調和設備の効率管理	保温庫、保冷庫の設定温度見直しによるエネルギー効率の向上を実施	R4	200.0
12	120200		熱源設備・熱搬送設備	12_冷凍機の効率管理	ターボ冷凍機、チラーの運用変更（冬場停止）によるエネルギー使用の削減に繋げる	R4	400.0
13	130300		空気調和設備・換気設備	13_換気設備の運転管理	コンプレッサーの運転管理（不要なものを停止）する事によるエネルギー使用の削減	R4	400.0
14	320200		ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	温水タンク熱媒のヒーターユニットから蒸気加熱への変更によるエネルギー使用の削減	R4	800.0
15	340500		発電専用設備、コージェネレーション設備	34_熱の動力等への変換の合理化に関する措置	再生可能エネルギー導入によるCO2排出量の削減	R5	400.0

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

